



学校だより  
卒業号

響



2020.3.19  
文責 大塚博守



春を実感できる日が多くなりました。3月に入り、感染症拡大防止対策として突然の臨時休校となり、学校から子どもたちの元気な声や笑顔が消えてしまいました。

静まり返った学校で先生方は、家庭生活が長引く子どもたちのことに思いをはせながら、卒業式の再計画や準備、学校内の掃除や年度末の成績処理・まとめの会議、新年度や入学式に向けての教室移動や子どもたちの荷物整理にと、卒業生の合言葉である「深い絆」を胸に卒業式を心待ちに



していました。

ぜひ、今日の卒業式が記憶に残る素敵な一日になりますように。

## 式辞

木々にも新芽が伸び、春の息吹が感じられる今日の佳き日に、川西町 町長 竹村匡正(ただまさ)様をはじめ、御来賓の皆様のお臨席を賜り、今般の厳しい状況下においても、第11回卒業式を挙げて下さる事を感謝申し上げますとともに、学校長として無上の喜びを感じております。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

今日、卒業式ができて、本当に良かったですね。急に臨時休業が決まり、卒業式ができない市町村もあるなか、「なんとかあなた達の卒業式を」「晴れ晴れと巣立っていく姿を共に祝いたい」という気持ちで、担任の先生はもちろんのこと、全ての先生方で準備をしてきました。

その期待どおり、証書を受け取る皆さんの姿は、希望にあふれキラキラと輝き、とても立派なものでした。

さて、私が皆さんと一緒に過ごした4年間は、私にとっても校長として、特別な意味のある、思い出深い日々となりました。しっかりと挨拶ができるあなた達、下級生にやさしく温かな言葉をかけていました。友達のことを親身になって考える姿、そんな、あなた達の確かな成長を感じる日々でした。

私は、校長として「これが川西小学校の今年の卒業生です」と言える幸せを、かみしめています。

そんな皆さんへの餞(はなむけ)として、私のイメージする「夢を描く心のキャンバス」の話をします。キャンバスの生地は、縦系と横系でできています。縦系に親から受けた愛情の大小やそれぞれの生活環境の違い、どこで生まれ、どのような性格の親に育てられたのか、時には財産の多い少ないや兄弟姉妹の数や順番、学校で誰に担任してもらうのかなど、自分自身の意思や努力では何とも代えがたい要素でできています。それに対して横系は、自分自身の中で育まれた、これまで生きてきたその人の経験や物事への向き合い方、考え方の積み重ねであるところとらえています。個々に違う縦系の数や質と横系の強度や太さも考慮すると、六年生を卒業するまでの12年間に人は、何とバラエティーに富んだ大きさも材質も違うキャンバスをそれぞれが編み上げて、一人一人が持つことになるのでしょう。

持てない者のやっかみで、周りと比べ、「友達のキャンバスが綺麗だ」とか「大きくて立派だ」とか「自分のキャンバスが貧相だ」とか。「親の愛情が足りなかった」とか「誰々のせいだ」とか、常に原因を外に押しつけ、不満ばかりを口にしては、いつまで経っても夢を描けるはずがありません。縦系が自分の意思の及ばないものであるとするならば、自分の考え方や気持ちのちようで横系を強く豊かなものにできることに、早く気づくことが大切ではないでしょうか。また、たとえキャンバスが小さくても何事にも制約されない自由な色使いで、自分にしか描けないあなたらしい素敵な夢を描けばいいのです。

いつも答えは、あなた自身の中にあるのですから

さあ、旅立ちの時です。「感謝の気持ち」と「あなたらしさ」で大地にしっかりと根を張り、自分の夢に向かって進んでいってください。

最後になりましたが、保護者の皆様、本日のご卒業、誠にありがとうございます。

今後も、お子様が健やかでたくましく成長されますことをお祈り申し上げ、式辞といたします。

令和2年 3月19日

川西町立川西小学校  
校長 大塚 博守